

令和7年 竹原市二十歳の集い

1月11日、竹原市民館で「二十歳の集い」を開催しました。

市長のお祝いの言葉、来賓祝辞の後、代表者による二十歳の誓いが行われました。さらに今年、本市出身でパリ2024パラリンピック・ゴールボール男子金メダリストである田口 侑治さんから「激励のことば」をいただき、最後は、市内コーラスグループの協力により、参加者全員で「群青」（作詞：福島県南相馬市立小高中学校平成24年度卒業生）を合唱しました。



「二十歳の誓い」を一部抜粋して紹介します。

やまだ まりあ
山田 麻里愛さん

本日は、このような盛大な式を催していただき、誠にありがとうございます。代表して、心より御礼申し上げます。二十歳という大きな人生の節目を迎えたことに、喜びを感じるとともに漠然とした不安を抱えている方もいるでしょう。私自身、大人に憧れを抱いていましたが、その自由さに日々恐れも感じています。

現在、私は竹原を離れ、大学で言葉と教育について学んでいます。将来は、こどもたちが必要以上に傷つかなくとも良い社会を実現するために、教育現場に根差した心理カウンセラーとして働きたいと思っています。温かいまち・竹原で幼いころから受けた温かさを今度は次世代に伝えていきます。

未来は簡単ではありませんが、決して真っ暗でもありません。私たちにはそれを乗り越える力があります。二十歳になってからの人生はまだ長く、何度もチャンスが訪れるはずで。今この場にいるすべての方々が、それぞれの道で輝き、自分自身の答えを見つげられることを心より願っています。

まえば ゆい
前場 侑衣さん

私は、大学進学とともに広島を離れ、東京で生活しています。改めて家族が好きだなという想いと、心底くだらない話のネタひとつで時間を忘れて一緒に過ごせる友達の存在のありがたみを感じています。丸2年が経とうとしている今でも、帰りたいと思える場所があることに心から感謝しています。

私にはまだ、絶対この職業に就きたいという想いはありません。でも、たくさんの方の役に立てることをできる人になりたいです。そのために今は多くのことを吸収したいと思っています。

やりたいと思ったことは先送りにせず、すぐに行動に移し、人から笑われるような夢を持った時には自分の唯一の限界は「命」だけだと信じ、上手くいったら「自信」に、上手くいかなかったら「経験」に。そうやって後悔しない人生を歩んでいくことをここに誓います。



▲二十歳の誓いを述べる山田さん(左)と前場さん

先輩・田口 侑治さんからの激励のことばを一部抜粋して紹介します。

二十歳を迎えられた皆様、そして保護者の皆様、誠におめでとうございます。

皆さんは、「Connecting the dots」という言葉をご存じでしょうか。Appleの創業者であるスティーブ・ジョブズの言葉で、翻訳すると「点と点が線となる」という意味です。僕は約10年ゴールボールのプレイヤーをしています。なかなか結果が出ず、33歳にして初めて結果を残すことができました。これは今までやってきた点が線となって結果に結びついたのかなと思います。

1番大事なことは、置かれた環境下で100%自分の力を注ぐことだと思います。今やっていることが将来どうなるかはわかりません。楽しいことも悔しいこともうまくいかないこともあると思いますが、今日お伝えしたことを頭の片隅にでも入れてもらえると嬉しいです。本日は誠にありがとうございました。



第74回“社会を明るくする運動”表彰

12月16日、第74回“社会を明るくする運動”作文・標語コンテストの表彰式が開催されました。583点の応募の中から、次の8人が竹原大崎地区保護司会長賞（最優秀賞）を受賞しました。

作文・小学生の部	こうじや 糺谷 奏人さん(竹原西小5年)
	ふるしげ 古重 琥珀さん(中通小6年)
作文・中学生の部	やまぐち 山口 結生さん(吉名学園7年)
	はまもと 浜本 侑政さん(竹原中3年)
	むろおか 室岡 空さん(竹原中3年)
標語の部	わだ 和田 悠希さん(竹原中1年)
	うめだ 梅田 彩夏さん(大崎上島中1年)
	ながやす 長安 ゆずさん(竹原中2年)



▲受賞者と今榮市長、竹原大崎地区保護司会の八崎会長

問い合わせ 竹原大崎地区保護司会 ☎24-6538

ゴールボール男子日本代表・田口侑治さんが竹原中学校で講演会

1月10日、竹原中学校で、卒業生の田口侑治さんを講師に迎え、「何度でも立ち上がる 金メダルへの道」をテーマに、講演会が開催されました。

田口さんは、視覚障害を理由に調理師を辞めたことや、東京パラリンピック出場後に一度選手活動を離れたこと、また、その時々に出会った人の言葉や姿を通じて選手活動を再開したことなど、自身の経験をもとに語られ、「何度負けても立ち上がり、自分の可能性を信じて突き進むことが大切」というメッセージを届けました。

また、ゴールボールやパラリンピックについて、クイズや映像を交えて分かりやすく紹介し、実際に代表生徒6人がゴールボールで使用するアイシェードを着用した状態でボールのパスを体験しました。生徒からは「見えない中で音を頼りにボールを追うには、お互いの声掛けが大事だと思った」などの感想が聞かれました。

質問コーナーでは、選手村の食事や、パラリンピックでのセットプレーなどについて、多くの質問が飛び交いました。さらに「田口選手のプレーを見てみたい」との声に、在学当時の教職員らとともにボールパスを披露し、会場中が盛り上がりました。在校生にとって金メダリストの先輩の経験談を聞く貴重な機会となりました。



農福コンソーシアムひろしまと地域共生社会実現に関する協定を締結



1月16日、(福)宗越福社会、(株)八天堂ファーム、アソシエイト・ファーム(株)の3者が連携し立ち上げた「農福コンソーシアムひろしま」と、広島県、竹原市、三原市、東広島市が「農福連携による地域共生社会実現に関する協定」を締結しました。障害者等の就労や生きがいがづくりの場を生み出し、農業分野において新たな働き手の確保につなげることを目的として活動します。

問い合わせ 産業振興課 農林水産振興係 ☎22-7745